

平成28年度 宇都宮市立城山中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 健康で豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを目指して、感性を磨き、社会的知性と実践力を身に付ける。
目指す児童像 ・進んで勉強する子ども（かしこく）
・思いやりのある子ども ・喜んで働く子ども（なかよく）
・健康で明るい子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

今年度のテーマ『みんなが 楽しく』 「地域が学校～地域に学び、地域とともに伸びる城山中央小学校」
<児童にとって> ・学ぶ楽しさ ・仲間がいる楽しさ ・学校の楽しさ のある学校
<保護者・地域にとって> ・通わせる楽しさ ・協力する楽しさ のある学校
<教師にとって> ・教え・導く楽しさ のある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 城山中央小学校の歴史と伝統を踏まえ、長年にわたって築いた教育の精神や校風を継承し、その発展に努める。
- (2) ○学校経営の中核に児童の確かな学力の定着を位置づけ、基礎基本の確実な定着と課題解決に必要な資質能力を育てる。
- (3) ○規範意識や倫理観などの社会性を身に付け、豊かな心、たくましい体をもった子どもの育成に努める。
- (4) 家庭・地域社会との連携強化に努めるとともに、家庭・地域の教育力を生かした教育活動を充実し、地域に根ざして開かれた地域の学校づくりに努める。
- (5) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、専門職にふさわしい資質の向上を目指すとともに授業者としての授業力の向上を図る。
- (6) 城山学校園教育ビジョンにのっとり、小中一貫教育を推進するとともに、学校園内各小学校との連携による地域一体の教育を推進する

【城山地域学校園教育ビジョン】ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

【ビジョンの理念】人と関わり合うことを大切にし、ともに向上しようという意識を高めながら、望ましい人間関係のもと、支え合いと活気のある集団の中で、様々な活動に主体的、意欲的に取り組む児童生徒を育てる教育を積極的に推進する。

【スローガン】なんでも全力、みんなでチャレンジ

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

○学び合う楽しさ、豊かな心の育成を目指して、和と協働の学校運営を推進する
～みんなが楽しく、城山中央小学校～

【学 習 指 導】

適切に課題を設定し、自力で解決したり、友達と意見交換して考えを深めたりする能力の育成

【児 童 生 徒 指 導】

○思いやりの心を持ち、物事を正しく判断し、主体的な行動ができる児童の育成
～児童と児童、児童と教師のコミュニケーションをより深めることを通して～

【健康（保険安全・食育）・体力】

自分の体に関心を持ち、進んで健康の保持増進と体力の向上に励む児童の育成
～教科体育や体育的行事の充実と、児童が体を動かしたくなる活動の推進～

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 適正な学校運営に努める。 ・創意と調和のある「子どもを生かす」教育の実践 ・学校評価を生かした保護者、地域と一体化した学校づくりの推進 ② 児童・保護者・教師・地域の思いを把握し、学校運営に生かす。 ・学校運営推進委員会の設置	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>95.5% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.1% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 児童は、「学ぶ楽しさ」・「仲間がいる楽しさ」・「学校の楽しさ」を実感しており、適正な学校運営が実施されたと言える。また、児童・保護者・地域の思いを学校運営に生かすことができた。 【次年度の方針】 次年度も、「みんなが楽しく」の学校経営の理念を継承し、学級経営を基盤とした楽しい学校づくりに取り組んでいく。	児童	95.5% ↑	保護者	96.1% ↑	地域住民	100% →	教職員	100% →
	児童	95.5% ↑										
	保護者	96.1% ↑										
地域住民	100% →											
教職員	100% →											
A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 全体アンケートの「教職員は、協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 教職員の資質と能力の向上に努める。 ・教育に対する理念、使命感、豊かな人間性、教育実践力、動向を察知した対応力等の向上 ・「報告・連絡・相談」の徹底 ・学年交換授業や教科担任制の推進 ・教師一人一人の授業力の向上	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>99.2% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.1% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 教職員は授業力向上のための研究に意欲的に取り組んできた。教師一人一人の授業力向上に向けた授業研究会の実施や学級経営についての研究推進など、組織で協力するとともに、それぞれが資質と能力の向上に努めることができた。 【次年度の方針】 児童の実態を的確に把握して指導にあたっていく。学校課題を解決していくための研修なども積極的に行っていく。	児童	99.2% ↑	保護者	93.1% ↓	地域住民	100% →	教職員	100% →	
児童	99.2% ↑											
保護者	93.1% ↓											
地域住民	100% →											
教職員	100% →											
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 基本的な生活習慣と規範意識の育成に努める。 ・生命や人権尊重を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施 ・「城央小のよい子」を活用した、統一的・継続的な指導 ② 家庭・地域、関係諸機関との連携	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>87.3% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.3% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> 日々の教育活動の中で、基本的な生活習慣の定着と規範意識の育成に努めたことによって、改善が見られ、数値指標を達成できた。 【次年度の方針】 学校生活の基本となる「城央小のよい子」を活用し、学校全体で共通理解を図りながら、指導の方向性を確立していく。また、学級経営を中心にして児童の人権感覚を高めていくとともに、職員研修等で人権教育の推進を図る。	児童	87.3% ↑	保護者	88.3% ↓	地域住民	93.3% ↑	教職員	100% →	
児童	87.3% ↑											
保護者	88.3% ↓											
地域住民	93.3% ↑											
教職員	100% →											

A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学習指導の工夫・改善を図る。 ・計画的な朝の学習の推進と見通しがつかめる授業の推進 ・指導技術の確立と授業時数の確保 ・習熟度別学習や少人数指導・TT指導等の効果の実施 ・学習内容定着度調査などの活用 ・かがやきルームの有効活用及び指導体制の充実 ・授業力向上のための校内研修の充実 ②家庭・地域への広報活動の工夫	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児 童</td><td>9 6 . 7 %</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>8 4 . 8 %</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>9 3 . 3 %</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>1 0 0 %</td><td>→</td></tr> </table> 分かる授業やきめ細かな指導を充実させていくために、学力向上アドバイザーを活用した研修の機会を生かし、授業の改善を図ってきた。また、習熟度別学習を行うなど、児童の学力向上に努めた。 【次年度の方針】 保護者の理解を得ていくために、個に応じたきめ細かな指導を充実させていく。	児 童	9 6 . 7 %	↑	保護者	8 4 . 8 %	↓	地域住民	9 3 . 3 %	↑	教職員	1 0 0 %	→
児 童	9 6 . 7 %	↑												
保護者	8 4 . 8 %	↓												
地域住民	9 3 . 3 %	↑												
教職員	1 0 0 %	→												
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組みを推進する。 ・「いじめ等対策委員会」の活用 ・「いじめゼロ強調月間」の充実 ・いじめ根絶集会の実施 ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実 ・<u>あいさつ運動の実施等見守り体制の整備</u> ・潤いのある学校環境の整備（ふわふわ言葉の掲示等） ・「さん」付けの呼び方の徹底 ②家庭・地域への広報活動 ・学校便りやホームページで公開 ・道徳の授業で公開	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児 童</td><td>9 8 . 0 %</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>7 3 . 0 %</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>1 0 0 %</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>1 0 0 %</td><td>→</td></tr> </table> 教職員は、いじめに対する危機意識を常にもって児童の指導にあたり、児童もそのことをよく理解しているといえる。そのことが保護者や地域住民の理解にもつながったといえる。 【次年度の方針】 学級経営を軸にしながら、いじめ撲滅に向けた具体的な活動を継続する。また、学校での取り組みや成果、課題等を保護者や地域住民にも積極的に発信することによって、連携協力を推進する。	児 童	9 8 . 0 %	↓	保護者	7 3 . 0 %	↑	地域住民	1 0 0 %	↑	教職員	1 0 0 %	→
児 童	9 8 . 0 %	↓												
保護者	7 3 . 0 %	↑												
地域住民	1 0 0 %	↑												
教職員	1 0 0 %	→												
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「自分の学校での生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① マネジメントサイクルを活用した特色ある教育課程の編成に努める。 ・「児童が生き生きと活動できたか」という視点からの学校行事等の反省・改善	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児 童</td><td>9 3 . 9 %</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>9 5 . 3 %</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>9 3 . 3 %</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>1 0 0 %</td><td>→</td></tr> </table> 本校の特色に基づいた教育課程の展開が図られ、達成状況は良好と言える。また、児童や地域住民の肯定的回答の割合は昨年度を上回った。 【次年度の方針】 学校行事等のアンケートや反省から課題を明確にし、ねらいに即した活動内容になっているかを検討した上で活動内容を見直し、改善を図る。	児 童	9 3 . 9 %	↑	保護者	9 5 . 3 %	↓	地域住民	9 3 . 3 %	↑	教職員	1 0 0 %	→
児 童	9 3 . 9 %	↑												
保護者	9 5 . 3 %	↓												
地域住民	9 3 . 3 %	↑												
教職員	1 0 0 %	→												

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」
⇒保護者の肯定的回答 90%以上
⇒地域住民の肯定的回答 90%以上

① 保護者や地域に信頼される学校づくりに努める。

- ・開かれた学級、学校づくりの推進
- ・うつのみやオープンスクール、授業参観、学校自由参観等の効果的な実施
- ・学校便り、ホームページ、学年便りなどの充実による積極的な情報発信
- ・保護者、地域の方との積極的なコミュニケーション

【達成状況】

児 童	
保護者	96.2% ↑
地域住民	100% ↑
教職員	100% →

開かれた学校づくりを目指し、各種便りを周知できるよう努めた。また、HPによって学校から各種の情報を発信したり、授業参観等を積極的に実施したりすることで、保護者や地域住民からの信頼を得られるよう取り組んできた。

【次年度の方針】

各種の便りやHP等を通して、より積極的に情報を発信していく。また、学校支援の活動支援に取り組んでいる方々から、率直な意見を聞いたり、地域人材の活用を促進したりすることで、地域とのコミュニケーションを図っていく。

A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」
⇒保護者の肯定的回答 90%以上
⇒地域住民の肯定的回答 85%以上

① 地域人材の協力や企業の専門性を生かした学習を推進する。

- ・「町の先生」の年間指導計画への位置づけ
- ・各育成会や地域行事への積極的な参加
- ・小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施
- ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動の工夫・充実

【達成状況】

児 童	95.1% ↑
保護者	94.4% ↑
地域住民	100% →
教職員	100% →

学習活動の充実を図るため、地域人材を活用することができた。魅力協をはじめとする関係諸機関との連携が図られ、特色ある学校づくりが推進できた。

【次年度の方針】

「町の先生」の内容の見直しを図りながら、新たなニーズにあった人材の発掘に努める。学習支援ボランティアやゲストティーチャー等を充実させ、学習効果を高める。

A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」
⇒保護者の肯定的回答 90%以上

① 教室や校内の学習環境を整える。

- ・教室環境の見直しと改善
- ・日常の清掃活動の工夫改善と充実
- ・まごころ広場や花壇・教材園の整備

② PTAやボランティアの協力を得て、環境整備に努める。

- ・トイレやオープンスペースの美化

【達成状況】

児 童	94.7% ↑
保護者	93.7% ↓
地域住民	100% →
教職員	100% ↑

・学校業務嘱託員の全面的な協力により、校内環境の改善が図られた。体育館や校舎の改修工事があったこともあり、使用できない箇所もあったが、行事や時季に合わせての掲示物等を工夫することによって、潤いのある学習環境を整えることができた。

【次年度の方針】

・古くなった掲示物を更新し、学習に必要な掲示物を精選することで学習環境を整えていく。

教育活動の状況	B 1	児童は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 全体アンケートの「児童は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① <u>家庭と連携して、学習習慣の確立を図る。</u> ・「家庭学習のしかた」「自主学習のガイド」に基づいた、発達段階に応じた宿題や自主学習の工夫 ・「学習習慣定着強化週間」を定期的に設定して、家庭と連携した指導に努める。 ・低学年「お話宿題」の推進による学校教育への関心の啓蒙	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>80.1% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>67.0% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% ↑</td></tr></table> ・今年度は具体的な数値を設定せずに、自分なりに時間を決めて取り組むことで、家庭学習の定着を目指したところ、児童、保護者、教職員ともに上昇傾向が見られた。しかし、保護者から見た児童の実態は依然として厳しい。 【次年度の方針】 ・「家庭学習のしかた」「自主学習ガイド」「学習習慣定着強化週間」の意義を各家庭に正しく理解してもらい、家庭と連携を図りながら家庭学習がさらに定着するよう取り組んでいく。	児 童	80.1% ↑	保護者	67.0% ↑	地域住民		教職員	100% ↑
	児 童	80.1% ↑											
	保護者	67.0% ↑											
	地域住民												
教職員	100% ↑												
A 10	児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 児童の創意を生かした「あいさつ運動」を推進する。 ・家庭及び地域協議会と連携した <u>地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開</u> ・小中合同の「あいさつ運動」の推進 ・「あいさつ運動」の内容・方法の工夫・改善（いつでも、どこでも、だれにでも） ② 家庭・地域への広報活動 ・ホームページで公開	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.8% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>75.9% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>73.3% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5% ↓</td></tr></table> 時と場に応じた日常的なあいさつの習慣は徐々に定着しつつあるので、あいさつ運動を自主的にできるようにする。また、あいさつの日常化が不十分なので、登下校時や長期休業前等に指導していく。 【次年度の方針】 自主的なあいさつ運動を推進するための具体的な方法について共通理解を図るとともに、各種の便りなどで随時あいさつの励行を呼びかけていく。	児 童	91.8% ↑	保護者	75.9% ↓	地域住民	73.3% ↓	教職員	90.5% ↓		
児 童	91.8% ↑												
保護者	75.9% ↓												
地域住民	73.3% ↓												
教職員	90.5% ↓												
A 11	児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① <u>基本的マナーと状況に応じた言葉づかいの励行</u> に努める。 ・時と場をとらえた指導の継続（訂正・賞賛） ・「職員室の入り方」等掲示物の作成と活用 ・「礼儀」についての道徳の授業の展開	A 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>84.8% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.1% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>80.0% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5% ↓</td></tr></table> 学校生活全般にわたって、時と場をとらえて指導してきたが、成果が上がらなかった。決まり事としての言葉の使い分けが身に付いているとは言い難い現状である。 【次年度の方針】 日頃から、指導する教職員の意識を高めるとともに、家庭における言葉づかいについては、懇談会や個人懇談等の機会を捉えて保護者の意識を高めていく。	児 童	84.8% ↑	保護者	68.1% ↓	地域住民	80.0% ↓	教職員	90.5% ↓		
児 童	84.8% ↑												
保護者	68.1% ↓												
地域住民	80.0% ↓												
教職員	90.5% ↓												

健康・体力	B2 児童は、思いやりの気持ちをもって生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は友達にやさしく、思いやりがある。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 一人一人を大切にする人権教育を推進する。 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ② まごころカードを継続的に実施する。 ・居がいのある学級づくり ・保護者への啓発活動の実施	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>94.7%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>96.0%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>92.9%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>→</td></tr></table> 昨年度同様、人権感覚チェックリストを活用したり、具体的な事例を紹介したりしながら教職員の人権意識を高めた。本校の今年度の学校課題との関連性を図りながら、お互いのよさが認め合える学級づくりを進めた。 【次年度の方針】 次年度も学級経営を軸にして人権感覚を高める教育を推進し、豊かな心づくりを進めていく。	児 童	94.7%	↑	保護者	96.0%	↑	地域住民	92.9%	↓	教職員	100%	→
	児 童	94.7%	↑												
	保護者	96.0%	↑												
地域住民	92.9%	↓													
教職員	100%	→													
A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童が進んで運動に取り組むことのできる<u>体育的環境の整備</u>と体を動かす遊びの日常化を図る。 ・竹馬や一輪車などの遊具の整備 ・まごころ広場の活用 ・「みんなで遊ぶ日」の工夫と外遊びの奨励	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>95.1%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>71.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>80.0%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>→</td></tr></table> 業間、昼休みに元気に外遊びをする姿が見られた。まごころ広場も遊び場として活用されていた。なかよし班、クラス等で「みんなで遊ぶ日」を活用し、体を動かすことができた。 【次年度の方針】 無理なく遊びながら体力づくりができるよう、がんばりカードを活用しながら外遊びを奨励する。がんばりカードには保護者の言葉やサインをもらい、保護者への周知を図る。	児 童	95.1%	↑	保護者	71.2%	↓	地域住民	80.0%	↓	教職員	100%	→	
児 童	95.1%	↑													
保護者	71.2%	↓													
地域住民	80.0%	↓													
教職員	100%	→													
A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、好き嫌いなく食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 食の指導や給食指導の充実 ・朝食をとっていない児童への指導 ・養護教諭、学校栄養士と連携した各教科や特別活動等における食育の実施 ・家庭と連携した食の指導 ② 「すこやか教室」の実施 ・町の先生と連携した食育の指導	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>84.4%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>69.7%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2%</td><td>↑</td></tr></table> 食育コーナー等の設置により、児童の食への関心が高まっている。 【次年度の方針】 給食便り等を生かして、マナー向上や残食が多い食材のレシピ等の情報を積極的に発信する。また、保護者からのアイディアも募集することで食への関心を高める。	児 童	84.4%	↑	保護者	69.7%	↓	地域住民	93.3%	↓	教職員	95.2%	↑	
児 童	84.4%	↑													
保護者	69.7%	↓													
地域住民	93.3%	↓													
教職員	95.2%	↑													

学 習	B3 児童は、自分の健康や体力に関心をもって生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康に気を付け、めあてをもって運動している」⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 家庭と連携して、健康の保持・増進に努める。 - 健康診断結果の適切な処置 - 手洗い・うがいなどの<u>衛生的な生活習慣の確立</u> ② 体力向上のための工夫・改善に努める。 - 各種検定や全校生で取り組む強化月間の実施 - 体育の授業、体育的行事を核とした体力づくりの実践 - 元気っ子体力テストの活用	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>88.5%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>67.7%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>92.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>→</td></tr></table> 健康を維持する生活目標や体育の授業等での各自の目標の意識化の不足によって、児童の肯定的回答の割合が下がった。 【次年度の方針】 宮っ子チャレンジ、ミニマム等の目標を児童に意識化させ、継続的に体力向上に取り組む。保健便り等を通して健康や体力への関心を高める。また、元気っ子体力テストの結果を保護者に知らせ、体力向上のための保護者の意識を高める。	児 童	88.5%	↓	保護者	67.7%	↓	地域住民	92.3%	↓	教職員	100%	→
	児 童	88.5%	↓												
	保護者	67.7%	↓												
地域住民	92.3%	↓													
教職員	100%	→													
A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① <u>基礎・基本の確実な定着を図る。</u> - 少人数指導、習熟度別学習等の工夫 - 話の聞き方や発表の仕方など徹底 「城央小の学習の仕方」に基づいた<u>基本的な学習態度の徹底</u> ② 児童の学習意欲を高め、共に学び合う授業の展開を図る。 - 学習意欲を喚起する工夫 - 共に学び合う学習展開の工夫	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.7%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.5%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>↑</td></tr></table> ・学習のめあてを明確にすることで児童の学習意欲を喚起し、基礎基本の確実な定着が図れるよう取り組んだ。ペア学習やグループ学習等を工夫し、学習指導に取り組んだ。 また、研究教科の算数だけでなく他教科においても共に学び合う授業の展開を図った。 【次年度の方針】 ・次年度も効果的な学び合いの場や主体的に学習に取り組めるような学習形態を工夫しながら授業を展開していく。	児 童	96.7%	↑	保護者	89.5%	↑	地域住民	93.3%	↓	教職員	100%	↑	
児 童	96.7%	↑													
保護者	89.5%	↑													
地域住民	93.3%	↓													
教職員	100%	↑													
A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学び合いを重視し、「学ぶ楽しさ」と「考えるおもしろさ」を味わわせながら、思考力の育成を図る。 <u>話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりの掲示物の作成と活用</u> - 話す力・聞く力・学び合う力の向上を目指す授業の工夫 - 共に学び合う学習活動の工夫 ② 「わかる授業」の推進 - 明確な課題の提示と板書等の工夫 - 個に応じた指導 - 教師の自主的、自発的研修の推進	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.4%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.7%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td>→</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>→</td></tr></table> 「わかる授業」の推進を図るために、「めあての明示」「書く活動の充実」「学習の振り返り」を常に意識しながら授業を進めた。また、一人一授業を実施したことによって、授業の工夫・改善を促すことができた。 【次年度の方針】 次年度も学ぶ楽しさや考えるおもしろさが実感できるよう、授業の進め方を工夫する。また、アクティブ・ラーニングについての理解を深め、授業に取り入れていく。	児 童	91.4%	↑	保護者	87.7%	↓	地域住民	100%	→	教職員	100%	→	
児 童	91.4%	↑													
保護者	87.7%	↓													
地域住民	100%	→													
教職員	100%	→													

	B4 進んで読書に取り組み、読書を楽しんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は進んで読書に取り組み、読書を楽しんでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 読書活動の充実を図る。 ・全校一斉、教師と児童の朝の読書の徹底 ・必読書感想カードの実施 ・ボランティアによる読み聞かせの実施 ・多読者賞の表彰 ・家庭と連携した家読の推進 ・読書リレー ・地区市民センターの利用方法の周知や朝読書の様子の紹介 ・絵本の国の整備	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>83.2% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>61.1% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> B 朝の読書や読み聞かせ、読書リレーの実施によって、進んで読書をしようとする児童が増えている。しかし、保護者の受け止め方は、昨年度に引き続き、厳しい状況である。 【次年度の方針】 学校での児童の様子を積極的に発信するとともに、学校独自の取り組みを紹介していく。読書リレーを充実させ、児童が家庭でも読書を楽しめるような工夫を継続させたい。	児 童	83.2% ↓	保護者	61.1% ↓	地域住民		教職員	100% →
児 童	83.2% ↓										
保護者	61.1% ↓										
地域住民											
教職員	100% →										
本校の特色・課題等	B5 学校は、保護者・地域住民との連携を図り、安全で安心な学校づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、保護者や地域住民との連携を図り、安全で安心な学校づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 危機管理意識の高揚を図る。 ・定期的な登校・下校指導の実施 ・避難訓練、防犯教室の実施 ・AED研修 ・アレルギー対応（エピペン研修） ・スクールサポーター、防犯ボランティア「まごころサポーター」等との連携	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.9% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>92.6% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% →</td></tr></table> B 安全で安心な学校づくりの取り組みは、昨年度よりも数値指標は下がっているが、全体としては概ね達成できた。 【次年度の方針】 学校・保護者・地域や関係機関の連携をさらに密にすることで、安全安心な学校づくりを進めていく。また、情報の共有と発信に努める。	児 童		保護者	92.9% ↓	地域住民	92.6% ↓	教職員	100% →
児 童											
保護者	92.9% ↓										
地域住民	92.6% ↓										
教職員	100% →										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・学校運営の状況に関するA1「学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」の肯定的回答の割合が児童・保護者とも95%を上回り、学校経営の理念である「みんなが楽しく」の実現が図られているといえる。来年度も本校の歴史と伝統を踏まえつつ、「居がいのある学校」「居心地の良い学校」の実現に向けて、全校体制で指導していく。また、学校での様子を各種の便りやHPで保護者や地域に発信し、連携協力していく。

○家庭における学習については、昨年度よりも肯定的回答の割合が高くなった。但し、数値の面から見ると、まだ十分とはいえない。児童の家庭での学習を充実させるには、家庭学習の出し方やその成果の評価方法をさらに工夫するとともに保護者の理解と協力を得なければならない。学級懇談会や各種の便り等で周知するとともに、家庭学習の進め方について指導を強化していくようにする。

○時と場に応じたあいさつは、学校はもとより地域学校園、地域協議会でも積極的に取り組んできたが、肯定的回答の割合が昨年度を下回ってしまった。あいさつの習慣形成の難しさを感じるところであるが、今後も日常生活の中に根付いたあいさつの習慣づくりに継続的に取り組んでいきたい。

・学習への積極的な取り組み方や落ち着いた学習態度等に関する項目で、児童の肯定的回答の割合が昨年度を上回った。基礎基本の定着を図るために少人数指導や習熟度別学習、さらに、かがやきルームを活用した個別指導等が効果的だったといえる。また、今年度は、学力向上アドバイザーの指導や助言を受けながら教師の授業力向上に取り組んだ。来年度も「分かる授業」の展開を図ることによって、児童の積極的な学習参加や発表意欲の向上に結び付けていきたい。

・家庭や地域と連携を図った地域の学校づくりに関しては、全体として肯定的回答の割合は高く、地域との連携が十分に図られているといえる。地域とのつながりは、学校からの情報発信と地域からの情報収集が重要と考える。今後も保護者をはじめ、様々な団体や関係機関との連携を密にしながら情報を共有し、地域に開かれた学校づくりを推進していきたい。

・読書活動の充実に関しては、達成状況を見ると、読書に関する保護者の肯定的回答の割合が低く、家庭における読書の定着が課題と言える。今年度は、新たな取り組みとして、読み聞かせボランティアの組織を立ち上げたり、読書リレーを始めたりした。来年度もこれらの活動を継続し、児童が家で読書するための環境づくりを保護者と協力しながら進めていきたい。

6 学校関係者評価

- ・学校運営の状況に関するA1における児童の肯定的回答の割合は、以前よりも高くなっているが、その数字にとらわれず、残り5%の児童への対応も考えてほしい。100%にならない原因を探り、個々に対する手立てを講じていくことが大切である。学習につまずいているのかもしれない児童に分かりやすく教えることで、「学校が楽しい」と感じるようになるかもしれない。
- ・あいさつの習慣がなかなか身に付かない。普段の生活の中で習慣化を図っていくことが大切である。毎日繰り返すことが必要ではないか。そのためには家庭の協力を得ながら、取り組んでもらいたい。子供同士がお互いにあいさつの様子について振り返る場面を作ることで、意識を高めていく方法も考えられる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

地域に信頼され、地域の核となる学校づくりを推進するために、学校を取り巻く、児童・保護者・地域・教職員の思いを吸い上げ、それらを検討し、次年度も下記のような4つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させる。

